

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		どすこい昭和町部屋		公表日		2026年 3月 11日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	5	■2階バルコニー部分にテントや遊具を設置する等、広く使える工夫をしている。	■子供たちが成長するにつれて、スペースが限られてきている。ご利用者が多い時は音の苦手な子供の落ち着ける場所の確保が難しい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	4	■野外活動時同様室内でもスタッフの立ち位置や担当を決めて対応している。	■ピークタイムや強度行動障害のご利用者が多い日は、段取りの工夫が必要。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	4	■トイレやふる場への段差はない。	■2階部分も支援場所として利用しているため、スタッフの配置に課題がある場合がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2	■「衛生管理委員会」が衛生管理を行っている。アルコールや次亜塩素酸を適時使用して、衛生管理に努めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	■こども達の特性に合わせて、1階・2階・バルコニーを活用している。	■定員に対してぎりぎりのスペースでの支援の為、満員時は落ち着ける場所の確保が困難。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	1	■毎週のスタッフミーティングにて目標・振り返りを実施している。	■スタッフの業務管理についてはPDCA的に不十分。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	■保護者の意向は都度スタッフミーティングにて公表し、評価している。	■評価表を提出されない方の評価を確認する機会が必要。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	■毎週のミーティングにて課題等を話す機会を設けている。	■個別に機会を設けているわけではないので、四半期に1回等、具体化を検討。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	9		■現時点では「第三者評価」は行っていない。将来は行いたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	■月1回他事業所合同で支援に関する研修を行っている。基本取れる資格は取るという方針で、積極的に受講を行っている。	■スタッフの参加率が不十分。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	2	■様々な特性をもつ子供達に応じて、多くの支援プログラムを準備し、公表している。	■プログラム数に対して、スタッフの力量が不十分な場合もある。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	1	■フィールドの活動において、体幹の強化、自発性など、個々の特性に応じた支援計画を作成している。	■フィールド活動が苦手、もしくは興味のない子供への対応。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	2	■計画を立てる際は、担当のスタッフを交えたミーティングにて支援計画を作成する。	■通常業務に追われて、ミーティングで内容を詰める時間が十分とは言えない。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	■ウィークリーミーティングにて情報を共有している。	■共有だけで満足せず、支援につなげる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1		■おのおののスタッフが個々の判断でインフォーマルな判断をする場合がある。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1		■ガイドラインの内容を具体的に理解できていないスタッフの教育の必要性。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1	■ミーティングを通して、立案している。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	3	■こども達の特性に応じた多くのプログラムを準備している。	■日々の活動は固定化しがち。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	2	■特にアウトドアの活動については、個別と集団の活動を具体的に組み合わせる為、子供に応じて支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	■その日のご利用者に応じた支援確認のためのミーティングを行っている。	■毎日は出来ていない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	■その日のご利用者に対する振り返りのミーティングを行っている。	■定例化は出来ていない。スタッフによって対応にばらつきがある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	1	■連絡帳とは別に日報に当日の様子を記入し、支援につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1		■モニタリング→担当者会議→個別支援計画と手順は踏んでいるが、マンネリ化が課題。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	1		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0		■体制としては整っているが、さらに密なる関係性の構築が必要。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	4		■25年度はこども園等との関係性を築けてはならず。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	3		■25年度は該当者がおらず。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	-	-		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	-	-		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	-	-		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	3	■地区の連絡会に参加して、情報の共有とスーパーバイズを受けている。	■来年度は参加率100%を目標にする。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	5		■機会が十分ではない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	1	■日々の連絡帳や送迎時の情報交換を通して、課題についての共通理解に努めている。	■個々のスタッフの力量に負う所が多い。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	4	■ご家族が参加できるオープンフィールドをほぼ毎月開催している。	■参加されるご家族が固定化しがち。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1	■内容変更時はご全利用者へ郵便にて案内を行い、送迎等直接お会いできる機会に逐次説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	■モニタリングや担当者会議を通して、本人や保護者の意見を反映する様、努めている。	■本人の意向の確認については試行錯誤している。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	1		■定期的には行っていない。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	3	■ご家族が参加できるオープンフィールドをほぼ毎月開催している。	■参加されるご家族が固定化しがち。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	■相談窓口を設け、担当者・連絡先を公表している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9	0	■SNSはほぼ毎日更新しており、情報発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	■ご本人（ご家族）と個人情報の取扱いに対しての覚書を取り交わしている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	1	■言葉や文字の理解が困難な子供には、視覚支援教材を適時使用している。 手話の出来るスタッフを配置している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	3	■イベントにご近所の方を招待している。	■事業所のスペースが十分ではない為、多くの方を招待する事が出来ない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0		■誰もが手にできる場所に配置はしているが、ご家族に対する周知は不十分。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0		■訓練は行っているが、想定している状況のイメージが難しい為、訓練の有用性が不明。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	1	■ご家族に確認し、スタッフに周知している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1	■ご家族に確認し、スタッフに周知している。	■医師の指示書がある場合は確認する。ない場合もご家族に聞き取りをして、キッチンに掲示し、おやつ等提供時に確認している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	3		■安全計画についてはご家族への説明が不十分。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	■事例は逐次共有し、ミーティングで改めて検証を行っている。	■LINEを使用して、リアルタイムで共有を務めている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	1	■適時研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	2	■現時点では身体拘束が想定されるご利用者がいない。		